



石川 宜介

『蓮花寺 (れんげじ) の梵鐘』

ゴールデンウィークに入った2016年 4月30日、姫路市夢前町杉之内にある天台宗の古刹、蓮花寺を訪れることにし数日前に電話を入れご住職の予定を聞いていました。出来れば朝一番、8時前には到着したいと考え自宅を7時に出発しました。播但有料道路で福崎まで行き、中国縦貫道路の夢前で降りると全所要時間30分ほどで目的地に到着です。しかし、誤算、夢前のインターチェンジの出口に人がいません。インターホーンのボタンを押すと『ここはスマートICですから、ETC 搭載車でないと降りられません。』『え！え！』そんな事を知らない私には驚きです。『山崎まで行ってください。』出口のそばから本線に向け方向転換、しぶしぶ山崎まで行き、姫路に向かって東に戻り、途中から北上し夢前町に入りました。結局大きく遠回り、1時間もかかり到着は8時でした。

蓮花寺は夢前川の右岸、杉之内集落の西端にあり山を背負い、朝日を浴びてまぶしく輝いていました。若いご住職が庭の掃除をしておられ『姫路の衣川です。』と下から声を掛けると、にこにここと降りて来られました。『始めに珍しい十一面観音を見せてください』本堂に招き入れられました。『私は2年ほどになります、前住職のご子息が跡継ぎをされなかったので、書写山で修業をしていた私が務めることになったのです。』写真を撮ってもいいですか？了解を得た十一面観音の座像です。10世紀作と推定される量感のある像です。

私の主目的は、梵鐘です。この鐘楼にぶら下がる梵鐘は宝暦4年(1754年)姫路野里、芥田五郎右衛門と同京口、小野六太夫が铸造したものです。昭和19年(1944年)供出、側面に材質検査のためのドリルの穴4個があいています。この事を知り、是非現物を見たいと思ったからです。

梵鐘は口径が695mm、駒の爪の厚み75mm、一区には天女の図、二区には銘文が陰刻されています。ドリル穴は直径15.5φmm内部まで貫通しています。乳は4列4段ですが、1個が無くなっています。この鐘は香川県・直島の三菱鉱業直島精錬所で検査されたのです。ちなみに、この鐘の数ヶ所が磁石に強烈につきました。型持ちの部分か？梵鐘の内部を覗くと赤錆色や白色の25φmmほどの円形があります。

戦後、奇跡的にもとの寺へ帰り、受難の歴史と平和の尊さを訴え続けています。このような穴の開いた梵鐘は関西に47個確認されているそうですが、蓮花寺の鐘はその中に含まれていません。



蓮花寺



十一面観音

穴あき梵鐘



四ヶの穴

参考資料

『たたらの里 ちくさ』～千草鉄(宍粟鉄)の歴史 副読本 P68
千種町教育委員会 鳥羽 弘毅 著
清水啓介(きよみず けいすけ) レポート「穴あき梵鐘」
戦争遺跡研究会(愛知県東海市)

来て！見て！ふれて！

ふしぎ体感

「鉄のふしぎ博物館」



むらの鍛冶屋®

何でもお気軽にお尋ねください！！